

■ 実習

## 実習「ブリッジ・ビルディング」

中村和彦

(南山大学人文学部心理人間学科)

津村俊充

(南山大学人文学部心理人間学科)

---

---

### ねらいの例

- ・グループでともに活動する際に、お互いの間に起こっていること（グループプロセス）に気づく。
- ・グループで話し合い、共同して課題に取り組む過程で起こること（例えば、自分自身のコミュニケーションの様子や関わり方、他のメンバーの様子、グループ全体の雰囲気や課題の進め方、ものごとの決め方、リーダーシップ、など）に気づき、その体験から学ぶ。

---

---

（上記のねらいは、学習者の状況に合わせて表現を変える必要あり）

### グループサイズ

1グループ 4名～7名。グループ数はいくつでも可能。

### 所要時間

120分（小講義を含めれば150分、課題の実施やふりかえりを短くすれば100分）

### 準備物

1. 手順書（資料1） 参加者に各1枚
2. ふりかえり用紙（資料2） 参加者に各1枚
3. 橋を製作するための材料 新聞紙1日分

（1日分として8枚32面以上が望ましい。各グループに配布する枚数を合わせること）

4. 製作のための道具 ホチキス、セロテープ、のり、はさみ 各グループに1つずつ  
橋に色を塗る場合はマーカーのセットまたはクレパス（各グループに1セット）
5. ミニカー 全体で1台以上（橋の強度を確認する際に使用）
6. A3の白紙（裏紙） 各グループに数枚 ※話し合いの際のメモ用に使用

## 会場の設定

移動可能な机と椅子を使用することが望ましい。グルーピング後は、グループのメンバーが机をはさんでお互いに向かい合う状態になれるよう（グループ形式）に設定する。また、グループの机から120cm離れたところに机をもう一つ設置する必要がある（図1参照）。



図1 各グループの机の配置例

## 手順

1. 導入 日程表などを配布し、ねらいと実習の手順を説明する。
2. グルーピング 何らかの方法でグループ分けを行い、グループの場所をセッティングするように伝える。お互いに初めて会う場合は自己紹介の時間を設ける。
3. 課題の導入 課題シート（資料1）を配布し、課題の内容を説明する。その際、以下の点について伝える。
  - ・話し合い（15分）の間は、橋の製作はできないこと。
  - ・プレゼンテーションでは、橋の名前と特徴を発表に含めるため、プレゼンテーションの内容や発表者は製作終了までに決めること。
  - ・課題シート（資料1）では、制作された橋の中から最も優れた橋を審査決定するといったことを示していない。もしも審査を行う場合は、最優秀の橋の決定方法（誰がどのように審査して決めるか）をあらかじめ伝えておくことが望ましい（「変形への示唆」を参照）。
4. 材料の配布 新聞紙、製作のための道具（ホチキス、セロテープ、のり、はさみ、色を塗る場合はマーカー等）、メモ用A3の白紙を各グループに配布する。 〈手順1～4までで約15分〉
5. 課題の実施 〈30分～45分〉
  - 1) どんな橋をどのように作るかを話し合う 〈15分〉

グループでどのような橋を作るか、それをどのように作るかを、グループのメンバーが話し合い、計画する時間である。話し合う際には、新聞紙を切ったり、組み立てることはできないことをファシリテーターが伝える必要がある。また、各グループに配布された白紙（A3数枚）を使って、どのような橋を作成するかを描くことができることも言及する。

15分経過したところで、ファシリテーターが合図をして、次の製作タイムに移る。なお、プログラム実施に際して全体の時間が足りない場合は、話し合いの時間を10分間と短かく設定することも可能である。

## 2) 製作タイム 〈20分～30分〉

製作タイムでは、新聞紙を用いて、机と机の間をつなぐ橋を作る。その際、橋を机にセロテープなどで貼りつけてよいこととする。

プログラム全体の時間が短い場合は、製作の時間を20分間に設定することも可能である。橋に色を塗る場合は、制作の時間として30分間は必要であろう。

6. プレゼンテーション グループごとに順にプレゼンテーション（各グループ1分ほど）を行う。他のグループのメンバーに、橋が見えやすい場所に移動してもらい、その後、橋を製作したグループの発表者が、橋の名前と特徴（アピールポイント）についてプレゼンテーションをする。また、強度を確認するために、グループの発表者にミニカーを橋の上に置いてもらう。 〈10分：グループ数により変動あり〉
7. ふりかえり用紙記入 〈15分〉
8. グループでのわかちあい 〈15～25分〉
9. 全体でのわかちあい 〈5～10分〉

## ファシリテーションのポイント

この実習は、実習「タワー・ビルディング」（中村・津村, 2010）と類似しており、ファシリテーションのポイントは中村・津村（2010）を参照されたい。

なお、資料2のふりかえり用紙は、ラボラトリー方式の体験学習をすでに体験したことがある参加者向けである。ねらいの設定との関連性を大切にして、学習者の年齢やラボラトリー方式の体験学習の経験、学習者同士の関係性を考慮したうえで、ふりかえり用紙をカスタマイズする必要がある。

## 変形への示唆

前述の実習「ブリッジ・ビルディング」では、課題として「グループの課題は、与えられた新聞紙1日分を用いて、机から机の間（120cm）をつなぐ橋を

作ることである。橋は、できるだけ強く（ミニカーの重さに耐えられること）、形が美しく、名前があることが求められます。」としている。この実習の変形のいくつかが考えられる。たとえば、机からの距離を120cmと決めずに、できるかぎり長い距離の橋を作ること、課題の評価点にすることもできるであろう。その際には、もう少し新聞紙（たとえば一日分）を追加するなど、準備する素材も検討する必要があるだろう。

また、その距離の自由度と併せて、よりダイナミックな実習にするならば、課題を「グループの課題は、与えられた素材を用いて、橋を作ることです。ミニカーが走り出すことができる斜面を作り、ミニカーがその橋を渡りきることができる強度が必要です。その橋は、できるだけ長く、美しく、できるだけ安定したものを製作してください。」とすることもできる。このタイプの実習実施には、走らせる車のタイヤは大きめで、新聞紙で作成した橋が多少でこぼこでも車の底があたらないような車を準備する必要がある。指示書の参考として〈資料3〉に示しておく。

制作した橋を何らかの基準で審査する場合には、基準を明確にすること、審査は誰が行うかなど、すべてのグループに公平であり、審査の結果が各グループに納得できるように十分に配慮する必要がある。

## 引用文献

中村和彦・津村俊充 (2010). 実習「タワー・ビルディング」 人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター紀要), 9, 120-127.

## 資料1

# 実習「ブリッジ・ビルディング」

ねらい（例）：

- ・グループで話し合い、共同して課題に取り組む過程で起こること（たとえば、自分自身のコミュニケーションの様子や関わり方、他のメンバーの様子、グループ全体の雰囲気や課題の進め方、ものごとの決め方、リーダーシップ、など）に気づき、その体験から学ぶ。

課題：

グループの課題は、与えられた新聞紙1日分を用いて、机から机の間（120cm）をつなぐ橋を作ることです。橋は、できるだけ強く（ミニカーの重さに耐えられること）、形が美しく、名前があることが求められます。

プレゼンテーションでは、各グループの発表時間は1分間です。プレゼンをする人を1名決めてください。プレゼンの際には、橋の名前と特徴（アピールポイント）を伝えて、その後にミニカーを橋に載せて強度をアピールしてください。

手順：

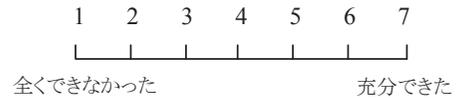
1. 導入・課題の説明・グルーピング (15分)
2. どのような橋を作るかを話し合う (15分)
3. 製作タイム (30分)
4. プレゼンテーション (10分)
5. ふりかえり用紙記入 (15分)
6. グループでのわかちあい (20分)
7. 気づきや学びの全体でのわかちあい (10分)  
+まとめ

出典：中村和彦・津村俊充（2012）実習「ブリッジ・ビルディング」  
南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第11号より

## 資料2

# 実習「ブリッジ・ビルディング」 ふりかえり用紙

1. この実習の中で、あなたは……  
どれくらい参加した実感がもてましたか？  
(どのような点で)



2. 課題に取り組んでいる間のグループ全体のプロセス（たとえば、コミュニケーションの様子、リーダーシップや影響関係、目標の共有化、グループの規範＝決まりごと、意思決定のされ方、進め方や手順化、全体の雰囲気やその変化、など）について、気づいたことを記入してください。  
<話し合い段階>

<製作段階>

3. あなた自身のグループの中での動きや関わり方、自分の中で起こっていたこと（気持ちや考えていたけれど言わなかったことなど）は？
4. 他のメンバーの言動や関わり方について、印象的な言動や動き、働きかけについて、また、それらがグループ全体やあなたへ与えた影響は？

<誰の>

<どのような言動が どのような影響を>

\_\_\_\_\_ :

\_\_\_\_\_ :

\_\_\_\_\_ :

\_\_\_\_\_ :

\_\_\_\_\_ :

5. 今回の実習の体験から学んだことは…？今回の体験で気づいたことで、日常に活かしていきたいことは？

### 資料3

## 実習「ブリッジ・ビルディング」

**ねらい：**グループで話し合い、橋を作る過程で、お互いの中で起こること（例えば、自分自身のコミュニケーションの様子や関わり方、他のメンバーの様子、グループ全体の雰囲気や課題の進め方、ものごとの決め方、リーダーシップ、など）に気づき、その体験から学ぶ。

### 課題：

グループの課題は、与えられた素材を用いて、橋を作ることです。ミニカーが走り出すことができる斜面を作り、ミニカーがその橋を渡りきることができる強度が必要です。

その橋は、できるだけ長く、美しく、できるだけ安定したものを製作してください。

プレゼンテーションでの各グループの発表時間は1分間です。プレゼン際には、橋の名前と特徴（アピールポイント）を伝えてから、ミニカーを走らせてください。

橋は、長さ・美しさ・強度・プレゼンから審査され、最優秀“ブリッジ”が1つ決定されます。

### 手順：

1. 導入・課題の説明・グルーピング (15分)
2. 橋を作る話し合い (15分)
3. 製作タイム (40分)
4. プレゼンテーション (10分)
5. ふりかえり用紙記入 (15分)
6. グループでのわかちあい (30分)
7. 気づきや学びの全体でのわかちあい (10分)

出典:中村和彦・津村俊充 (2012) 実習「ブリッジ・ビルディング」

南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第11号より

# 実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号(2008)より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずはご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお勧めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/> をご参照ください）。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

## 実習を使用する際の留意事項

1. 著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載することは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。
2. ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

### 【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008）「グループ エントランス」

南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第 7 号より

3. 課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。
4. ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。